

## 水稻品種「佐賀1号」の栽培特性について

第1報 作期と施肥

執行敏子・横尾浩明・\*田中俊朗・広田雄二・\*\*野中和弘

(佐賀県農業試験場・\*佐賀県上場営農センター・\*\*佐賀県農業大学校)

Toshiko SHIGYO, Hiroaki YOKOH, Toshiro TANAKA, Yuji HIROTA and Kazuhiro NONAKA :

Agnomic Characteristics of Cultivar "Sagai"

### 1. Transplanting Time and Fertilizing Method

佐賀1号は、コシヒカリの倒伏の弱点を克服するため、コシヒカリとニシホマレを交配して得られた極早生の短秆でしかもコシヒカリ並の良食味品種である。佐賀県では佐賀1号をブランド米として推進していくため、1991年に奨励品種に採用した。

本報告は1989年に行った佐賀1号の生態反応試験で、試験1では作期と施肥について、試験2では穂肥Iの施用時期について検討したので第1報として報告する。

#### 1. 試験方法

試験1：佐賀1号、コシヒカリ、キヌヒカリを供試した。移植期は4月27日と6月27日の2時期である。施肥量は、全区とも基肥をa当たり0.3kg、穂肥I—穂肥IIを0.2kg—0.1kg、0.4kg—0.1kg、0.4kg—0.2kgとし、T—N量を0.6kg、0.8kg、0.9kgとした。

試験2：供試品種は佐賀1号、移植期は6月27日である。施肥量は試験1と同様とし、穂肥Iの時期を出穂20日前と出穂15日前とした。

#### 2. 結果及び考察

##### (1) 試験1 (第1表)

稈長は作期による差はなく、施肥量による差もほとんどなかった。しかし、穂長は4月移植の方が1~2cm長くなった。また、穂数は両作期とも0.9kg区で多くなった。有効茎歩合は4月移植が10%低くなり、多肥にするほど若干低くなった。これは、早植え、多肥にするほど二次分げつが多くなるためと考えられる。倒伏程度は4月移植の場合、3品種とも「無」であった。6月移植の場合

場合は、9月上旬の秋雨前線の影響を受け、コシヒカリの0.6kg区で2(少)、0.8kg区で4(多)となったが佐賀1号ではすべての区で倒伏しなかった。

収量は4月移植の方が多収となった。これは4月移植が6月移植に比べ、一穂穂数が多かった、登熟歩合(特に二次枝梗の登熟歩合)も高まっているためである。一方、施肥との関係を見ると、0.9kg区では穂数が増えるものの、登熟歩合が低く増収効果は認められなかった。検査等級は4月移植でやや劣った。これは、やや刈り遅れて茶米が混入したことが原因である。

##### (2) 試験2 (第2表)

稈長は出穂20日前の穂肥区が若干長くなった。穂長も出穂20日前の穂肥区が若干長く、それにともない一穂穂数も多くなり、穂数も多くなったが、登熟歩合低くなり結局収量はa当たり約3kg程度多収であった。検査等級はほとんど変わらなかった。

(3) 以上の結果より、佐賀1号は早期の4月移植まで作期を早めても良質で安定した収量が期待できると考えられる。また、増肥により二次枝梗がつきやすく、登熟歩合の低下をもたらす品質低下の傾向が認められるので、0.9kgを越える施肥はしないことが重要である。特に佐賀1号は倒伏に強い品種なので、必要以上に施肥される恐れがあるのでこの点は厳守する。

穂肥Iの時期は出穂20日前の方が生育旺盛で、しかも多収である。品質は出穂15日前よりわずかに劣るので、施用時期としては出穂20~15日前が適当と考えられる。

第1表 作期及び施肥量試験の生育、収量

試験区名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	倒伏程度	合有効茎歩 kg/a	玄米重 kg/a	一穂穂数			登熟歩合%			千粒重 g	検査等級	
									一次	二次	計	一次	二次	計			
4月27日移植	0.6	7.24	8.25	66	17.7	321	0	63	53.4	43.2	32.3	75.5	95.7	86.3	91.7	21.9	2上
	0.8	7.24	8.25	66	18.5	331	0	67	53.4	45.5	33.4	78.9	95.4	85.0	89.4	22.0	2上
	0.9	7.24	8.25	68	18.9	402	0	70	56.6	44.7	35.6	80.3	92.1	84.9	84.4	22.3	2上
6月27日移植	0.6	7.25	8.26	80	19.3	314	0	74	52.7	44.8	33.1	81.9	91.5	84.5	82.5	22.3	2上
	0.8	7.25	8.26	82	19.3	362	0	74	52.7	44.8	33.1	81.9	91.5	84.5	82.5	22.3	2上
	0.9	7.25	8.26	72	17.6	298	0	70	53.0	46.6	29.5	76.1	83.9	87.1	81.1	22.7	2上
4月27日移植	0.6	7.25	8.26	74	18.8	339	0	69	55.1	49.3	34.8	84.6	89.7	88.2	85.0	22.7	2上
	0.8	7.25	8.26	74	18.8	339	0	69	55.1	49.3	34.8	84.6	89.7	88.2	85.0	22.7	2上
	0.9	7.25	8.26	68	16.9	344	0	72	48.6	42.2	27.6	69.8	84.7	71.2	85.4	22.9	1中
6月27日移植	0.6	8.22	9.29	81	17.9	328	2	80	48.2	40.8	31.7	72.5	90.2	81.7	86.0	23.0	1中
	0.8	8.22	9.29	81	17.9	354	2	85	48.2	42.8	33.1	73.9	89.4	73.5	85.2	23.2	1中
	0.9	8.22	9.29	73	17.8	396	0	82	49.7	40.8	31.7	72.5	90.2	81.7	86.0	23.0	1中
6月27日移植	0.6	8.22	9.29	81	17.9	328	2	80	48.2	40.8	31.7	72.5	90.2	81.7	86.0	23.0	1中
	0.8	8.22	9.29	81	17.9	354	2	85	48.2	42.8	33.1	73.9	89.4	73.5	85.2	23.2	1中
	0.9	8.22	9.29	73	17.8	396	0	82	49.7	40.8	31.7	72.5	90.2	81.7	86.0	23.0	1中

第2表 穂肥Iの施用時期試験の生育、収量

試験区名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	倒伏程度	合有効茎歩 kg/a	玄米重 kg/a	一穂穂数			登熟歩合%			千粒重 g	検査等級
									一次	二次	計	一次	二次	計		
0.6kg	-20	8.25	9.29	66	16.9	344	48.6	42.2	27.6	69.8	94.7	71.2	85.4	22.9	1中	
0.6kg	-15	8.25	9.29	63	16.5	322	45.4	39.7	23.9	63.6	95.8	85.7	92.0	22.6	1中	
0.8kg	-20	8.25	9.29	66	17.3	344	48.6	42.2	30.2	72.4	88.6	62.8	78.2	23.0	1中	
0.8kg	-15	8.25	9.29	63	16.9	312	45.6	40.1	22.8	62.9	94.6	81.7	89.7	22.8	1中	
0.9kg	-20	8.25	9.29	68	17.6	396	49.7	40.8	31.7	72.6	90.2	81.7	86.0	22.9	1中	
0.9kg	-15	8.25	9.29	62	16.6	342	46.8	39.4	23.3	62.7	94.9	88.0	92.2	23.0	1中	